

冬のスポーツの代表格であるラグビー。しかし具体的にどのようなスポーツであるのかを知らない人も多いと思います。そこで今回はラグビーがどのようなスポーツであるのかを簡単に説明するとともに、京都大学ラグビー部主将である北原広^{こうた}さんのインタビューを交えながら、ラグビーの魅力を伝えていきます。読者の皆さんに少しでもラグビーに興味を持って頂き、ラグビーの人気を盛り上げてゆくことができれば幸いです。
(スペ砲)

👉 ラグビーってどんなスポーツ？

ラグビーはよく「陣地取りゲーム」にたとえられます。ボールを2チームの選手で奪い合い、そのボールを持って相手側のインゴールと呼ばれるスペースに攻め入ります。両チームの選手は、相手側のインゴールを目指して互いに体をぶつけ合いながら、ボールを奪い合って攻防を繰り返します。ボールは、持って走ること、パスすること、キックすることが認められています。ボールをパスする場合は、**自分よりも後ろにいる選手にのみパスすることが許されています**。これはラグビーのプレーの中で、特筆すべき特徴だといえます。

得点はどう決まるの？

トライ (5点)

相手側のインゴールの地面にボールをタッチさせます。

ゴールキック (2点)

トライを決めた後にキックを成功させます。

ペナルティゴール (3点)

相手の反則で得たキックを成功させます。

ドロップゴール (3点)

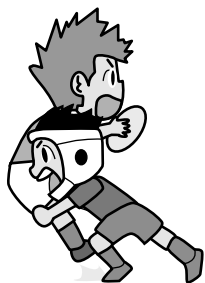
ボールを地面にバウンドさせて、キックを成功させます。

ラグビーボールが楕円球である理由

ラグビーの原型が誕生した頃は、完全な円球のボールを作ることが技術的に困難であったため、楕円球になったという説があります。具体的には、豚の膀胱に穴を開けて空気を入れて膨らませ、皮を張り合わせて作られていたもので、その結果、自然とラグビーボールの形が楕円球になったようです。

ラグビー用語解説

タックル



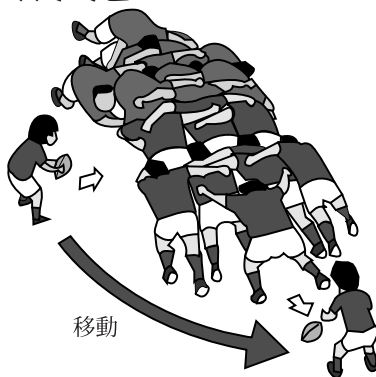
▲ボールを持った選手に飛びかかり倒します。

ラック



▲地面に転がっているボールを、両チーム合わせて3人以上が立った状態で組み合って奪い合います。

スクラム



▲試合が反則などで中断した時に、両チームの選手同士が組み合い、その真ん中に投げ入れられたボールを蹴って最後方の選手に回します。そしてプレーが再開されます。

その他にもボールを持った選手を中心に、両チーム合わせて3人以上が立った状態で組み合う**モール**や、ボールがタッチラインを割った時に、タッチラインに対して垂直に並んだ両チームの選手の間でボールを投げ入れ、ボールを奪い合う**ラインアウト**などがあります。

はみだし
すてーじ

名前を書かずに0点。名前を書いても0点。
⇒0点取りそうな時はテストを受けない勇気が大事だよ。

(理・1 ポポポ)
(そんな勇気は僕にはない；編)

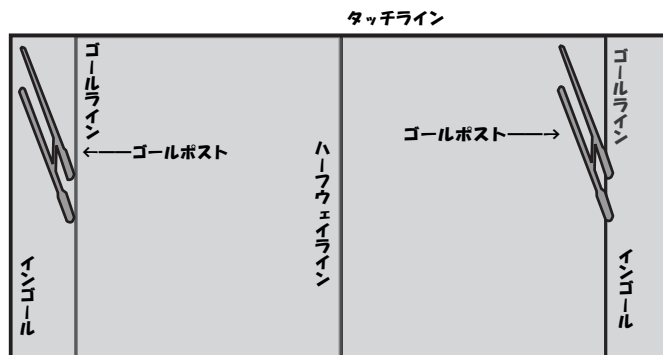
試合時間は？

一般的な試合時間は前半・後半それぞれ40分で、その間に10分以内のハーフタイム、つまり休憩時間が与えられます。また、選手の怪我や故障などでプレーが止まっていた時間がロスタイムとして設けられます。

競技人数は？

1 チーム15人で構成され、控えメンバーとして7人のベンチ入りが認められています。

その15人の選手のうち、主に攻撃と守備の両方の役割を担う選手はフォワード（FW）と呼ばれ8人で構成されます。一方、FWから出されたボールを実際の得点に結びつける役割を担う選手はバックス（BK）と呼ばれ7人で構成されます。また、FWとBKのそれぞれの中で、さらに細かく役割ごとにポジションが振り分けられます。



▲ゴールポストとは双方のゴールライン上に立っている2本のポストのことで、クロスバーで繋がれています。相手側のゴールポストで挟まれたクロスバーよりも上の空間にキックでボールを通すことができれば得点が入ります。

京大ラグビー部主将北原広大さんにインタビュー!!

ここからはラグビーを実際にプレーしている方にラグビーの魅力について尋ねてみましょう。

Q. ラグビーの魅力とは？

大切な仲間に出会えることですね。ラグビーをやっていると痛いし、しんどい。しかし、味方同士で体を張って、勝利を目標に相手にぶつかっていくことで得られる信頼感があります。そうして得られた仲間というのは、かけがえのない仲間だと思います。

Q. ラグビーの見どころとは？

初心者の方がルールを理解して試合を見るのはなかなか難しいんです。しかし見どころとしては、体格の小さな選手が自分よりも体格の大きな選手に向かって体を張ってタックルするところなどがありますね。

Q. 京大ラグビー部の雰囲気は？

現在私立大学の多くは、全国の高校から優秀な選手を引っ張ってきています。でも京大は国立大学である限り、とりあえず入試に受かってもらわなくてははいけません。そうすると、身体的な能力では私立大学と比べると劣ってしまいます。それでも勝っていくために、皆で相手チームの戦力を分析し、戦術を考えるなどをします。部員全員でやっていくという感じですね。厳しい上下関係も特になく、しかし礼儀がないというわけでもなく、本当にアットホームな雰囲気なんです。みんな回生を問わず仲がいいですし、それはうちの自慢の一つですね。



◀福岡県出身で、ラグビーが盛んな土地柄と父の影響でラグビーを始めたという北原さん。大学を卒業し、働き出してから何らかの形でラグビーに関わっていきたくと話されていました。

Q. 主将として心がけていることは？

自分が一番体を張って、プレーでチームを引っ張っていかうと思っています。あとはメンタルケアといった大袈裟ですけど、なるべくチームメイトに対する気遣いを忘れないように心がけていますね。そういうことでチームがまとまってくれればいいと思います。

Q. 主将をやっていて良かったなと思った瞬間は？

やっぱり試合に勝った時に、主将をやっていて良かったなと思います。以前私立大学の強豪チームと対戦した際に、4年ぶりに勝利をあげて、その時はもう嬉しくて泣き崩れましたね。

Q. 京大生に一言お願いします！

京大ラグビー部のメンバーの中には、1回生からレギュラーになった人や大学からラグビーを始めてレギュラーになった人もいます。どんな人にも適したポジションがあって、体格とかは不問ですので、少しでも興味があるならぜひやってみてほしいと思います。

今回お話を伺っていると、北原さんのラグビーに対する真摯な思いと熱意がひしひしと伝ってきて、それがとても印象に残りました。お忙しい中、インタビューにお答え頂き本当にありがとうございました。これを機に、皆さんにもラグビーに興味を持って頂きたいと思います。